

11月17日

あきる野市議会議長 殿

会 派 名 明るい未来を創る会

代表者氏名 合 川 哲 夫

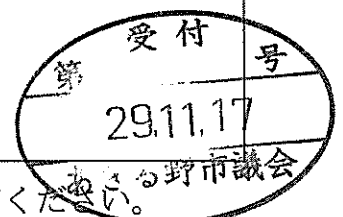


会派の（ 調査研究 ・ 研修 ） 報告書

このことについて、下記のとおり実施したので報告します。

記

1 調査研究または 研修実施日	平成29年10月16日（月）～ 平成29年10月18日（水） 2泊 3日
2 調査研究または 研修の場所	①10月16日（月）京丹後市丹後町支庁舎 ②10月17日（火）美作市上山集落 ③10月18日（水）笠岡市役所
3 調査研究事項 または研修名	①公共交通施策の取り組み・自家用車を活用したライドシェアについて ②過疎集落の交通対策（小型モビリティ）について ③人口減少対策に関する定住促進センターの取り組みについて
4 参加者氏名 （ 5 名）	合川 哲夫 中村のりひと 奥秋 利郎 村木 英幸 清水 晃
5 調査研究または 研修の概要及び 感想等	別紙のとおり



※ 自家用車を使用した場合は、必ず自家用車使用報告書を添付してください。

1 日目

10月16日 京丹後市

視察内容

公共交通政策の取り組み・自家用車を利用したライドシェアについて

1. 京丹後市概要

京都府の北西部日本海に面した市は、平成16年4月に、丹後町他5町が合併し、京丹後市となる。合併時の人口65,822人。平成28年4月には57,198人となる、8624人、率で13.1%の減少率である。
面積501.46平方キロ(あきる野市の約6.8倍)と広大な市域がある。

2. 視察先への行程

京都駅からJR福知山線と丹後鉄道の相互乗り入れの「はしだて3号」で「あまのはしだて」駅まで行き、丹後鉄道に乗り換え「みねやま」駅下車、昼食後、タクシーで約40分、ようやく視察場所の丹後市丹後町支所に到着、家を出てから8時間の長旅でした。

※市、支庁舎にてNPO法人「気張る！ふるさと丹後町」の広報担当の東 恒好氏の説明を受ける。



左列奥の、NPO法人の東^{みづま}氏の説明をうける
会派メンバー



「ささえ合い交通の運転手さんと自己所有車と会派メンバー（支所前にて）」

※視察内容と感想 奥秋利郎文

京丹後市の一部、丹後町を視察 人口平成29年1月現在5,392人高齢者人口2,197人高齢化率40.8%と高い。

平成20年10月には丹後町にあった間人^{たいざ}営業所、24年10月には久美浜営業所、25年7月には網野営業所が撤退したためタクシー空白地への対応として、平成26年7月には、NPO法人が受託する市営デマンドバス（運賃上限200円）を丹後町域で運行開始、平成27年10月には網野町域、久美浜町域においてEV乗合タクシー運行を開始した。

丹後町域では平成28年5月にスマートホンを活用した、ささえ合い交通と称する新たな公共交通として、道路運送法第78条第2号に基づく「公共交通空白地有償運送」の運行開始、運賃はタクシーの半額程度、運行主体は市営バスの運行を委託するNPO法人「気張る！ふるさと丹後町」、が実質運営し、アメリカで発展した「ウーバー」のアプリを使用するのは全国初の試みとの事。

※感想

NPO法人「気張る！ふるさと丹後町」が運行する「ささえ合い交通」はウーバー社（米国カリフォルニア州）の日本法人のウーバー・ジャパン株式会社のアプリベースのICTシステム（スマートホン）を活用した「公共交通空白地有償運送」として運行開始してから1年5か月経過した。

当該丹後町は人口が5,392人で高齢者が4割以上の地域であり、過疎化による人口減少により、公共交通サービスの継続ができなくなったことから、テクノロジーを活用し地元の住民が既に保有するマイカーを有効利用することにより、新たな財源を投入がなく、また地域住民が空いた時間に自らドライバーとして参加することで、持続可能なサービスの確立を目指している。

地域公共交通会社（タクシー会社も参加）で運行提案内容が全会一致で承認され国土交通省に登録申請、国土交通大臣認定講習会を開催し、ドライバーの育成をし、全乗客8割が地元の人の利用によるもので、病院、スーパー、役所等への利用でよろこばれている。

観光面でも期待が高まっている。

ドライバーは現在19名が登録している（内4名が女性）が、新たな社会との接点や楽しみを提供している、との事、私が利用した車のドライバーは「自分の収入などは計算していません。何より地域の利用者の方々の笑顔です。」と言っておられ、第2の人生の過ごし方に満足をしている様子であった。

2日目

10月17日 美作市上山集落

視察内容

過疎集落の交通対策・小型モビリティについて

1. 上山集落の概要

岡山県美作市上山地区は、市中心部より南に約12km、東の赤磐市、南に和気町に近く、山陽道和気インターでおり、国道374号線で北へ、県道90号線に入り途中右に山間部に向う、間もなく上山地区に入り、高原状の山村地である。夏は涼しく、冬は非常に寒く積雪もかなりある。

人口	集落の人口	165人68世帯(最盛期は800人~1,000人)
面積	約1,000ha	=10,000,000㎡=10平方km=302万8千坪
	農地100ha	山林900ha
	8300枚の棚田があり、そのほとんどが未整備	

2. 上山集落の沿革

歴史は古く奈良時代より棚田の整備が行われ8300枚の棚田があると言われている。

現在人口160人の過疎地に、2007年に棚田の再生を志す人々が現れた。2007年次の非営利活動法人を立ち上げた。

※特定非営利活動法人「英田上山棚田段」が生まれ、2017年で10年目を迎えた。
・移住者と地元の人々が一緒になり、農業は勿論、棚田の資源を活用した新たな産業や観光、交通やエネルギーの課題に取り組む。

※続いて同法人「みんなの集落研究所」が生まれた

- ・地域づくりを支援する人材の育成、政策提言を行う等、地域の自治づくりなどの支援
- をする非営利活動法人

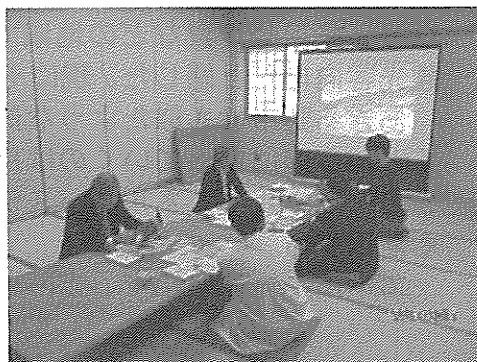
※2014年に一般社団法人トヨタ・モビリティ基金

- ・上山におけるモビリティ社会の実現に向けての助成事業は国内初の助成案件となった。
- ・経済的持続性を確保した中山間地域の移動の仕組みの模索
- ・中山間地に適した超小型モビリティの導入

一般社団法人「上山集落」の水柿さんより、棚田の再生や地域との交流、生活上の助け合い、そしてトヨタ・モビリティ基金の助成等々のお話を聞いた。

講師はあきる野市引田出身の方で、まじめに精力的に働いている様子がうかがえた。

写真は説明を受ける会派メンバー





説明を聞いたのちモビリティの電気自動車「コムス」で集落を一周

この池は奈良時代から継続し、一時拡張をして、棚田に水を供給している。
管理は集落の人々によって行われている。



棚田整備前後の様子を写真掲示してある。

後方には棚田が見える。稲刈りの終わっていない棚田がある。

※視察内容と感想 中村のりひと文

中山間部での小型モビリティの活用と棚田再生と過疎集落への溶け込み、それは集落に伝わる伝統芸能の復活、お年寄り世帯への日常生活の援助、新たに移住してきた看護師の健康面での指導、等々、集落の人々の中に溶け込み、結果このNPO法人の地域の自治づくりに賛同した若者も次第に増加してきた。

このように人口も緩やかではあるが増えている。こうしてメンバーが集落の中で生活し住民として交流を一層深めていくことが大事だと感じる。

この上山集落は10kmもある地域、そこで取り入れたのが小型モビリティ、電気自動車の「コムス」お年寄りでも簡単に乗れる、集落がはなれている上山地区での集会や買い物、医療機関への足、他の地区の交通手段として親しまれ、今では観光客の足として広く使われるようになった。

これには自動車会社の一般財団法人トヨタ・モビリティ基金の助成が認められ、7台の「コムス」が導入されたことにより、飛躍的に生活上の利便性、交流、観光等への大きなステップだった。

※感想

当市としてはこれからの交通対策をいかに的確に実施していくかが重要な課題となり、養沢や戸倉などの地域で交通弱者の方が使うというよりは、そこに行く方や、観光客向けだと感じた。現にそのような形での活用を図っているようにみうけられる。

あきる野市でも似たような形になるのか？市全体をエネルギー自給・循環をしていくという形にもっていくのは良いと思うし、コムスは電気自動車なので山間部にソーラーパネルでエネルギーステーションを作って、そこで充電する。勿論それ以外にも活用する。

エネルギーを自給するまちづくりへ発展させることまで考えていきたいと思った。

3 日 目

10月18日午前 岡山県笠岡市

視察内容

人口減少対策に関する定住促進センターの取り組みについて

1. 笠岡市の概要

当市は岡山県の南西部に位置し西は広島県福山市に隣接している。市域より南に7つの島々が瀬戸内に連なり、最遠方の島には海路で1時間弱の距離にある島から市域となっており、瀬戸内海のほぼ中央に位置している。

市内には川は無く、慢性的な水不足に悩まされたが、昭和47年に倉敷市を流れる高梁川から導水し、笠岡湾干拓や市内全域、島しょ部にまで水道水がいきわたるようになった。

面積 136.39平方キロ

人口 49,977人（平成29年4月視察資料による）

合併時、昭和30年後半には70,000人を超えていた。

2. 定住促進センターの取り組み等

※ 人口動態表

単位：人

年度	自然動態増減	社会動態増減	合 計	備 考
平成24年度	△435	△285	△720	
25	△423	△121	△544	
26	△440	△206	△646	
27	△429	△301	△730	
28	△501	△400	△901	
合 計	△2228	△1313	△3541	

定住促進センター視察資料による。

上記表には記載されていませんが平成18年には700人近く減少していき20年には801人と減少が続き、以後も表のように減少化は止まらない状況である。

- ・ 平成21年に4月1日に「定住促進センター」を立ち上げる
センターの事業として大きく6事業を決定し、事業を開始する。
 1. 住宅新築助成金交付事業
 2. 建物取得に関する税制優遇制度の検討
 3. 空き家有効利用対策
 4. オール不動産情報集約提供事業
 5. U・Iターン就職情報
 6. 結婚応援事業Ⅰ
- ・ このような各事業において各種の助成、支援、相談、イベントを行う。
- ・ 各種定住サポートの関係団体の協力体制、協力者の充実
- ・ 広域的取り組み。例えば
 - 井笠圏域結婚推進事業（3市2町で構成） 婚活イベントの開催
 - 井笠圏域移住推進事業（同上） 東京での移住相談会開催
 - おかやま高梁川流域推進事業（7市3町で構成）
 - 備後圏域定住促進事業（6市2町で構成）

以上定住化を促進するための様々な事業、かつ事業に対し真剣に取り組むを行ってきた。

※感想 清水 晃 文

笠岡市は瀬戸内海に面した港町、岡山県の南西部、陸地部と個性豊かな7つの島々で構成されており、ふるさと村にも指定されている真鍋島や重要無形民俗文化財に選定された古式豊かな盆踊りが今でも伝承される白石島等、笠岡観光のひそかなブームとなっている。しかし、毎年度500～800人もの人口が減少していく。

平成21年1月に笠岡市定住促進ビジョンを策定に副市長直結の匿名組織としてスタートし、住宅新築助成、固定資産税相当額一部助成、情報集約提供、結婚応援、多世代同居対策、新婚世帯家賃助成など16事業、そして近隣市町との広域的取り組みを活発に進めている。しかし日本の少子高齢化の進展の中で「定住促進」を最重点課題と位置づけ、市民と協働しながら、笠岡に住んでいて良かったと幸せを実感できるような市を目指している。

これらの取り組みに非常に感銘を受けた。今後のあきる野市の参考にしたい。

以上